

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日独青少年指導者セミナーは、研修テーマ「子供の居場所」に基づき、行政機関、関係団体、施設等での実地体験、青少年教育指導者との研究協議などを行うことで、日本の青少年教育等の現状と取組を理解したり、両国における青少年教育等を比較したりして、青少年教育指導者の資質・能力の向上を図るとともに、日独両国間の理解と親善を深めることを目的に実施する。

A1・A2 共通テーマ「子供・若者に優しい社会の実現」

A2 テーマ 「子供の居場所」

2. 事業の概要

(1) 期日

東京プログラム 平成28年5月15日（日）～19日（木）

岡山プログラム 平成28年5月19日（木）～23日（月）

東京プログラム 平成28年5月23日（月）～28日（土）

(2) 参加者

団長1名、団員8名、計9名

ドイツ連邦共和国在住の青少年教育行政、青少年団体等で指導に当たる専門家で、ドイツ政府及びドイツ側実施機関であるドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関とベルリン日独センターから選抜された20歳代後半から60歳代の9名。

(3) 会場

5月19日 早島町教育委員会
早島小学校放課後子供教室

5月20日 川崎医療福祉大学
児童養護施設みのり園

5月23日 公益財団法人岡山市ふれあい公社北ふれあいセンター

(4) 講師等

①地域で学習支援を行う取組

早島町教育委員会 教育長 徳山順子 氏

早島町教育委員会 生涯学習課 主事 藤本高志 氏

早島町教育委員会 教育支援コーディネーター 野田久美子 氏

早島町教育委員会 学校教育課 はやしま学支援本部サブコーディネーター
永原慎太郎 氏

②大学生などが地域のコーディネーターとして子供の居場所を提供する取組

川崎医療福祉大学 講師 社会福祉士 直島克樹 氏

川崎医療福祉大学 学生

4名

③養護を要する子供に居場所を提供する取組

児童養護施設みのり園 園長

小出 叡 氏

児童養護施設みのり園 職員

溜谷潔昭 氏

児童養護施設みのり園 職員

倉田直美 氏

(5) 企画・運営のポイント

- ① 岡山県内で本事業のテーマを取り組んでいる機関・団体等を選定し、参加者にとって有意義な研修となるように、本部国際・企画課及び各訪問先の講師と連携を図りながら、事業を進めた。
- ② 訪問先を選定する際に、東京プログラムと内容が重複しないように配慮した。
- ③ 県内を動く動線がスムーズになることも含めて、訪問先の選定を行った。
- ④ ホームステイ先は岡山県国際交流協会と連携して行った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
5/19 (木)	移動(東京→岡山)						岡山到着	移動	研究協議 「地域で学習支援を行う取組」			移動	ホテル入室 フリータイム				
5/20 (金)	起床・洗面・朝食・ チェックアウト		移動	研究協議 「大学生などが地域のコーディネーターとして子供の居場所を提供する取組」			移動・昼食		研究協議 「養護を要する子供に居場所を提供する取組」		国立吉備青少年自然の家 オリエンテーション タペのつどい	歓迎パーティー		入浴 自由時間			
5/21 (土)	起床・洗面・清掃・朝食			ドイツ団ミーティング			昼食		ホームステイプログラム								
5/22 (日)	ホームステイプログラム																
5/23 (月)	ホームステイプログラム				ホストファミリーとお別れ会			移動	岡山到着	移動(岡山→東京)							

(2) 活動の状況



【地域で子供を支援する取組<早島町教育委員会>】



【早島小学校放課後子ども教室訪問】



【大学生などが地域のコーディネーターとして子供に居場所を提供する取組<川崎医療福祉大学>】



【養護を要する子供に居場所を提供する取組<児童養護施設みのり園>】



【ホストファミリーとお別れ会】

4. 成果・課題

(1) 成果

- ① 岡山県内の取組を国際的な視野から見ていただき、お互いに意見交換を行えたことは訪問先にもドイツ団にとっても有意義であった。
- ② 訪問先として、行政、大学、児童養護施設の取組を選定できたことは、ドイツ団にとって視点が代わって有効であった。
- ③ ホームステイ先は、国際交流協会と連携したことにより、大変スムーズに選定することができた。8世帯のホームステイ先のうち、7世帯がリピーターで1世帯が昨年度申込みが遅れて1年越しの申込みという世帯であった。どの世帯もおもてなしの気持ちで受け入れていただいた。

(2) 今後の課題等

東京プログラムの成果発表を見せていただき、このプログラムが大変有意義な内容であったことを感じた。ただ、岡山プログラムを振り返る中で、訪問先の時間を十分にとることができれば、さらに深まる内容になるのではないかと感じた。

本部と連携し、訪問先及びドイツ団にとって有意義な研修となるように、内容の選定や時間設定など十分に考慮してプログラムを組み立てる必要がある。

担当：企画指導専門職 大下展弘